朝日小学生新聞賞

お父さんの手

鹿児島県　鹿児島市立玉江小学校　三年

野村　歩夢

「おれの手きたないから、代わりにしはらいして。」

と、言いながらお父さんは、いつもお母さんや、ぼくにさいふをわたしてきます。ぼくは、お手伝いが出来るので、たのまれたら、うれしい気持ちになります。

でも、お母さんは、

「仕事をがんばってついたよごれなんだし、洗っても落ちないんだから、相手の方によごれがうつることはないし、気にしないで自分ではらいなよ。」

と、言います。それでもお父さんは、自分ではらわないので、お母さんがはらいます。その時のお母さんの顔は、おこっているような、かなしんでいるような顔をしています。たまに、この事が原いんで、けんかになる時もあります。けんかをした時に、お母さんに、

「大じょうぶ？　何でお父さんは、あんなにいやがるのかな。」

と、ぼくは聞いてみました。

すると、お母さんが、

「むかし、お父さんがコンビニで、お金をはらおうとした時に、店員さんがお父さんのよごれた手を見て、とてもいやそうな顔をして、お父さんの手にふれないように、お金を受け取られたことがあって、それからお父さんは、気にして自分で、はらわなくなったんだよ。」

と、教えてくれました。ぼくは、お父さんの手のよごれを、一回もきたないと思った事がなかっ

たので、この話を聞いて、むねの中が「ギュー」となって、とてもかなしくなりました。ぼくが元気をなくしていると、

「お母さんは、お父さんの手のよごれを、一回もきたないと思った事はないよ。あのよごれは、家族のために一生けん命はたらいて、がんばって仕事をしているあかしだと思う。」

と、お母さんが言いました。ぼくは、お母さんがぼくと同じ気持ちだったので、ホッとして、うれしい気持ちになりました。

ある日、ぼくはお父さんに、

「なんで手がよごれるのに、手ぶくろをして、作業をしないの？。」

と、聞きました。お父さんはぼくの目を見て、

「重要な所を作業する時は、手ぶくろをしていると、細かい作業がしにくいし、す手の方が、感かくがたしかだからだよ。」

と、話してくれました。

ぼくのお父さんは、車屋の自えい業をしています。いそがしい時は、朝ぼくが起きる前に出社して、ぼくがねた後に帰ってくるので会えない日もあります。とても車が大好きで、車の事を何でも知っていて、ぼくにたくさん車の事を教えてくれます。お客さんの故しょうも、すぐになおしてしまう所は、とてもすごくてカッコイイです。そんなお父さんの、何でもできる手が、ぼくは大好きです。

お父さんといつもいっしょに、がんばってくれるお父さんの手、本当にありがとう。

評価のポイント 働くことの大切さ・誇り、家族への愛情・感謝の気持ちの大切さを教えてくれる。